プレスリリース

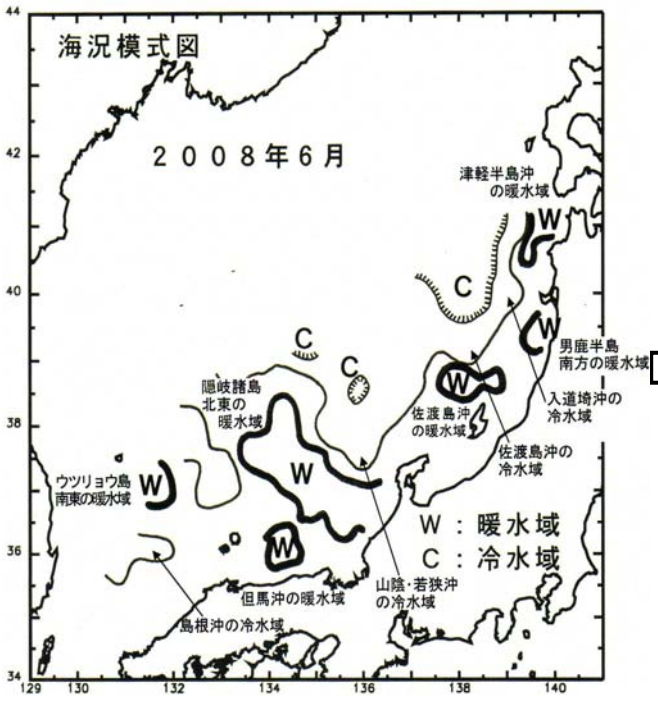
平成２０年７月４日
水　　産　　庁
独立行政法人 水産総合研究センター

平成２０年度第２回日本海海況予報

－別表の水産関係機関が検討し独立行政法人水産総合研究センター
日本海区水産研究所がとりまとめた結果－

今後の見通し（2008 年 7 月～9 月）のポイント

対馬暖流域の表面水温は、″平年並み″(±0.5℃程度）で経過する。
対馬暖流域の 50m 深水温は、日本海西部では ″平年並み″(±0.5℃程度)、北部では ″やや高め″(+1℃程度）で経過する。



2008 年 7 月～9 月の海況

○ウツリョウ島南東の暖水域は、ほぼ停滞する。
○隠岐諸島北東の暖水域は、徐々に北東に移動する。
○但馬沖の暖水域は、東に移動した後、隠岐諸島北東の暖水域と合体する。
○佐渡島沖の暖水域は、北東に移動する。
○男鹿半島沖の暖水域は、北上する。
○津軽半島沖の暖水域は、消滅する。
○島根沖の冷水域の張り出しは、平年並み。
○山陰･若狭沖及び入道埼沖の冷水域の張り出しは、やや弱い。
○佐渡島沖の冷水域の張り出しは、弱い。

問い合わせ先

水産庁　増殖推進部　漁場資源課　沿岸資源班
担当：大隈、和田、染川
電話：03-3502-8111（内線 6800)、直通電話：03-6744-2377、ファックス：03-3592-0759
当資料のホームページ掲載先 URL
http://www.jfa.maff.go.jp/j/press/
独立行政法人水産総合研究センター　日本海区水産研究所　業務推進部
電話：025-228-0451、ファックス：025-224-0950
当資料のホームページ掲載先 URL
http://abchan.job.affrc.go.jp/
http://jsnfri.fra.affrc.go.jp/

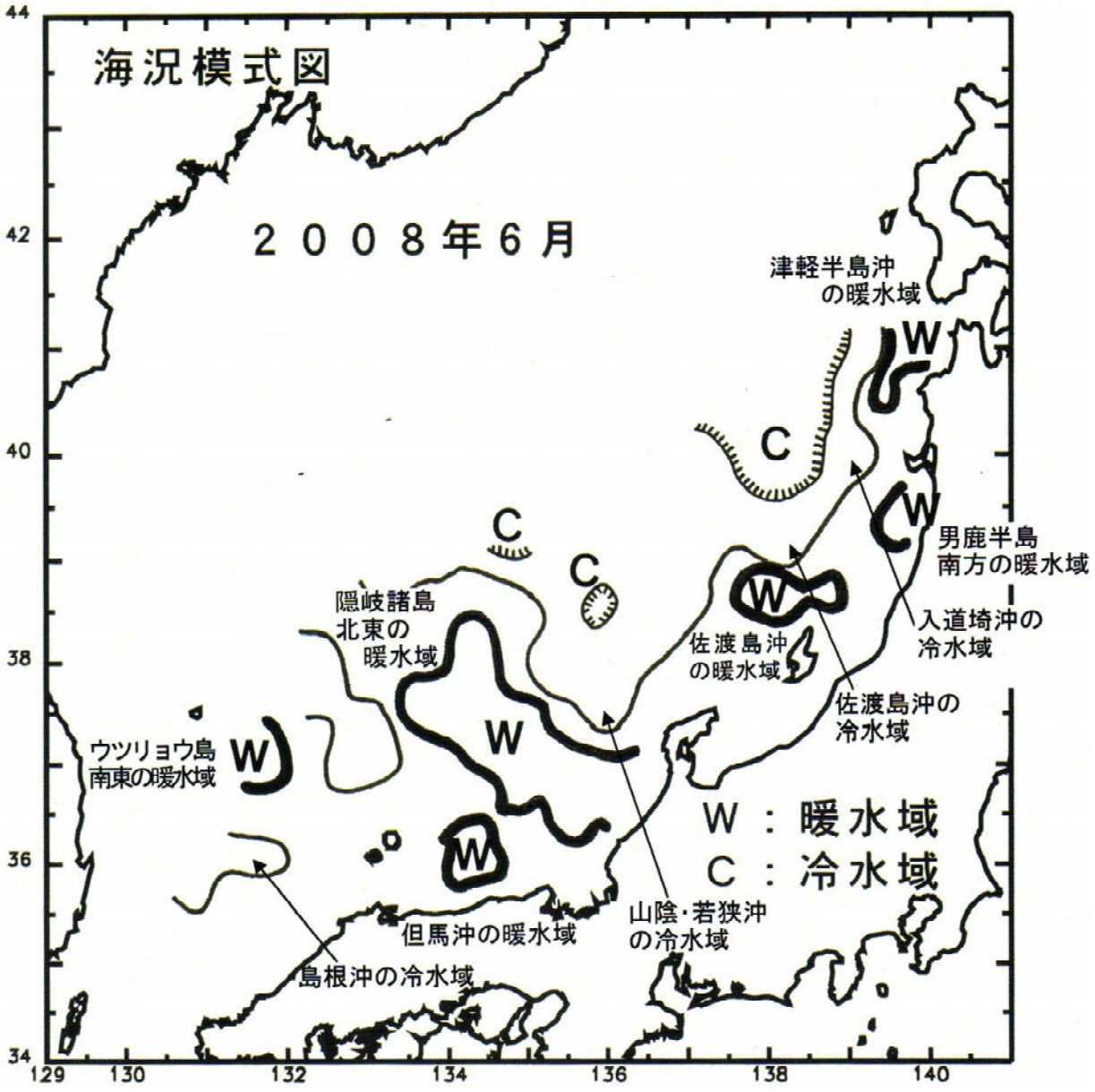
平成２０年度第２回日本海海況予報

１．今後の見通し（2008年7月～9月）
(1)ウツリョウ島南東の暖水域は、ほぼ停滞する。隠岐諸島北東の暖水域は、徐々に北東に移動する。但馬沖の暖水域は、東に移動した後、隠岐諸島北東の暖水域と合体する。佐渡島沖の暖水域は、北東に移動する。男鹿半島沖の暖水域は北上する。津軽半島沖の暖水域は、消滅する。
(2)島根沖の冷水域の張り出しは、平年並み。山陰・若狭沖及び入道埼沖の冷水域の張り出しはやや弱い。佐渡島沖の冷水域は、弱い。
(3)対馬暖流域の表面水温は、”平年並み”で経過する。
(4)対馬暖流域の50m深水温は、日本海西部では”平年並み”、北部では”やや高め”で経過する。

２．経過（2008年3月～5月）
(1)3月に隠岐諸島北東でみられた暖水域は、4月に沿岸側の部分が隠岐諸島付近から金沢沖に移動した後、ほぼ停滞。
3月に若狭湾沖、4月に丹後半島沖でみられた暖水域は、それぞれ東に移動して隠岐諸島北東の暖水域と合体。
3月に佐渡島北方でみられた暖水域は、北東に移動して男鹿半島沖の暖水域と合体。
3月に山形沖及び男鹿半島沖でみられた暖水域は、北東～北に移動。
3月に津軽半島沖でみられた暖水域は、4月に消滅。
5月に鳥取沖で暖水域が発生。4月にウツリョウ島南東で暖水域を確認。
(2)島根沖の冷水域は、規模及び接岸状況とも平年並み。山陰・若狭沖の冷水域は、規模は平年並みでやや接岸。佐渡島沖の冷水域は、規模は小さく離岸。入道埼沖の冷水域は、規模は小さくてやや離岸（3月）。
(3)対馬暖流域の表面水温
3月：概ね”平年並み”で、佐渡島北西海域では”やや高め”～”かなり高め”の海域が分布。
4月：隠岐諸島西方で”やや低め”～”かなり低め”の海域が分布するが、それ以外は”平年並み”～”やや高め”で佐渡島以北では”かなり高め”の海域が広範囲に分布。
5月：隠岐諸島北西及び島根沿岸で”やや低め”～”かなり低め”の海域が分布するが、それ以外は”平年並み”～”やや高め”で、隠岐諸島東方及び男鹿半島沖では”かなり高め”～”はなはだ高め”の海域が分布。
(4)対馬暖流域の50m深水温は、日本海西部及び北部とも”やや高め”（1～3月平均）。

３．現況（2008年6月）
(1)暖水域は、ウツリョウ島南東、隠岐諸島北東、但馬沖、佐渡島沖、男鹿半島南方及び津軽半島沖に分布。
(2)島根沖の冷水域は、規模は平年並みで接岸。山陰・若狭沖の冷水域は、規模は小さく接岸状況は平年並み。佐渡島沖の冷水域は、規模は小さく離岸。入道埼沖の冷水域は、規模は平年並みでやや離岸。
(3)対馬暖流域の表面水温は、ほぼ全域で”平年並み”～”やや低め”となり、島根沿岸、山形・秋田沿岸及び積丹半島南西では”かなり低め”の海域が分布。
(4)対馬暖流域の50m深水温は、日本海西部及び北部とも”平年並み”（4～6月平均）。

（註）引用符（”　”）で囲んで表した、平年比較の水温の高低の程度は以下のとおり
”はなはだ高め”：約20年以上に1回の出現確率である2℃程度の高さ
”かなり高め”　：約10年に1回の出現確率である1.5℃程度の高さ
”やや高め”　　：約4年に1回の出現確率である1℃程度の高さ
”平年並み”　　：約2年に1回の出現確率で、平年値±0.5℃程度の水温
”やや低め”　　：約4年に1回の出現確率である1℃程度の低さ
”かなり低め”　：約10年に1回の出現確率である1.5℃程度の低さ
”はなはだ低め”：約20年以上に1回の出現確率である2℃程度の低さ



2008年6月の海況模式図

参　画　機　関

北海道立中央水産試験場	京都府立海洋センター
青森県水産総合研究センター	兵庫県立農林水産技術総合センター 但馬水産技術センター
秋田県農林水産技術センター 水産振興センター	鳥取県水産試験場
山形県水産試験場	島根県水産技術センター
新潟県水産海洋研究所	山口県水産研究センター
富山県農林水産総合技術 センター　水産研究所	社団法人 漁業情報サービスセンター
石川県水産総合センター	水産庁　増殖推進部　漁場資源課
福井県水産試験場	独立行政法人 水産総合研究センター 日本海区水産研究所